

## スポーツ少年団活動現場における指導の実態に関するアンケート調査概要

### 1. 調査の目的

スポーツ少年団の活動現場における指導の実態を把握するとともに、今後のスポーツ少年団指導者の養成及び研修等を充実・改善するための基礎データとし、ひいては今まで以上に団員が安心して楽しく活動ができる環境の整備に資することを目的とする。

### 2. 対象事業

第10回全国スポーツ少年団バレーボール交流大会	(平成25年3月)
第35回全国スポーツ少年団剣道交流大会	(平成25年3月)
第35回全国スポーツ少年団軟式野球交流大会	(平成25年8月)
第35回全国スポーツ少年団ホッケー交流大会	(平成25年8月)

### 3. 回答数

団員：小学4～6年生 1596名（男子747名、女子836名、不明13名）  
指導者：179名（20代-9名、30代-46名、40代-67名、50代-30名、60代-22名、70代-4名、不明-1名）

### 4. 調査方法

上記大会に参加した団員・指導者に対し、大会期間中に質問用紙によるアンケート調査を実施。

### 5. 調査の内容

団員：スポーツ少年団の活動現場（平成24年4月～調査日）における、指導者からの暴力行為等の実態について  
指導者：スポーツ少年団の指導現場（指導開始～調査日）における、団員に対する暴力行為等の実態について

### 6. 調査結果概要

【指導者：179名】

- 複数回答により、叩くなどの暴力（6%）、怒鳴るなどの暴言（6%）、罰としてダッシュをさせるなど懲罰的な行為（6%）を行ったことがあると回答。
- そのような行為は、主に日常的な活動の中で、団員のやる気を高めたり、ルールを守らなかったことを正すために行われ、日常的にはないが、複数回行われている傾向がみられる。

- 指導者自身、ある程度、暴力的な行為として認識している場合が多いが、中には暴力的な行為と認識していない者もいる。

【団員：1, 596名】

- 複数回答により、怒鳴るなどの暴言（40%）、叩くなどの暴力（16%）、あるいは罰としてダッシュをさせるなど懲罰的な行為（14%）をされたり、見たり、聞いたことがあると回答。
- そのような行為は、主に日常的な活動あるいは試合の中で、指導者に言われたプレーができなかったり、やる気を出させるために行われたと団員は受け止めており、1回ないし複数回行われた傾向がみられる。
- 暴力的な行為を何故されたのか、原因が分からないと回答した団員（7%）がいる。
- 相談する相手は、家族（13%）、次いで他の人、リーダー等であったが、一方、誰にも言わないという回答（25%）があった。

【まとめ】

- 暴力、暴言、懲罰的な行為に対する行う側とされる側の認識の違いについて、指導者に対する設問では、自らが行った行為について回答させているのに対し、団員に対しては、自分以外の第三者が暴力的な行為を受けたものも含めて回答させたことから、単にパーセンテージの数字でもって、行う側・される側の認識の違いを単純比較することができなかった。
- 団員は、指導者に言われたプレーができなかった時に、大声でどなられていると感じていることが多いが、指導者は怒鳴っている認識が低く、指導者はこの認識の差について十分注意する必要がある。
- また、暴力的な行為を何故されたのか、原因が分からないと回答した団員（7%）がおり、指導者と団員とのコミュニケーション不足がうかがえる。
- 暴力等の行為を受けた後、誰にも相談しないと回答した団員（25%）がおり、一人で問題を抱え込んでいることは大きな問題と言える。
- 指導者の中には暴力的な行為をそれと認識していない者がおり、そのような認識が改められるよう研修等を行う必要がある。

(別紙)

スポーツ少年団活動現場における指導の実態に関するアンケート集計結果

- ・ ( ) 内の%は、団員・指導者それぞれの回答数に対する割合。
- ・ 本結果中の「暴力行為」とは、指導者から団員に対して行われる身体的・精神的・懲罰的な全ての暴力的行為をいう。

【指導者：179名】

《「行ったことがある」と答えた指導者の回答》

暴力行為の内容	※複数回答あり	
叩く、殴る、蹴るなどの暴力・暴行	11名	(6.1%)
人格を否定するような暴言(怒鳴りつける)	11名	(6.1%)
懲罰的に負荷の大きな練習(罰ダッシュ等)の強要	10名	(5.9%)

暴力行為の原因	※複数回答あり	
団員が団活動のルールを守らなかったことを正そうとした	13名	(7.3%)
団員のやる気を高めようとした	13名	(7.3%)
団員のプレイ中のミスを正そうとした	5名	(2.8%)

暴力行為の頻度		
複数回	17名	(9.5%)
日常的	3名	(1.7%)
1回のみ	2名	(1.1%)

暴力行為を行った場面	※複数回答あり	
日常の活動中	21名	(11.7%)
試合中	5名	(2.8%)

暴力行為の認識		
認識していた	6名	(3.4%)
ある程度認識していた	9名	(5.0%)
認識していなかった	7名	(3.9%)

【団員：1,596名】

《団員が直接受けた暴力行為に加え、見たり、聞いたものも含む回答》

暴力行為の内容	※複数回答あり	
大きな声でどなられる	642名	(40.2%)
たたく、なぐる、けるなど	257名	(16.1%)
試合に負けてつらい練習をさせられた	222名	(13.9%)

暴力行為の原因		
練習や試合でいわれたプレイや技ができなかったから	496名	(31.1%)
わからない	111名	(6.9%)
自分や友だちなどのやる気が出るようにするため	95名	(6.0%)
団のルールや約束を守らなかったため	63名	(3.9%)

暴力行為の頻度		
複数回	480名	(30.0%)
1回のみ	122名	(7.6%)
日常的	74名	(4.6%)

暴力行為が行われた場面	※複数回答あり	
日頃の活動中	547名	(34.3%)
試合中	299名	(18.7%)

暴力行為を受けた後の相談者	※複数回答あり	
誰にも言わなかった	399名	(25.0%)
家族の人	212名	(13.3%)
ほかのひと	77名	(4.8%)
リーダー	38名	(2.4%)
他の指導者	14名	(0.9%)
学校の先生	11名	(0.7%)